活き活きと輝き、誇れるまちの今を伝える

広報湯前

Public Relations

Since1962.

http://www.yunomae.com/
［まちの情報誌ゆのまえ］

12
TheMonthly
Nov_2017
Vol.438

私たち人吉球磨地域に移住して来ました！

球磨郡市広報紙研究協議会合同特集

一緒に暮らそう 人吉球磨で

広報湯前 2017 Vol.438 12

CONTENTS

広報湯前は毎月1回発行しています。広報誌は湯前町のホームページでも見ることができます。ぜひ、まちと人の“活き活きと輝く今”をパソコンやスマートフォンでもお楽しみください。http://www.yunomae.com/

スマートフォンはこちらから

今月の表紙

人吉球磨10市町村の合同特集は移住定住。表紙で人吉球磨に移り住んだ人たちを紹介しています。定年退職後、神奈川県から引っ越し、現在ひなの会の会長を務める姉川美恵子(みえこ)さん(65＝上里3)は人柄と自然に地域の魅力を感じていました。

受け継ぐ、心――

13年間続く伝統芸能の継承／湯前中学校文化祭

湯前中学校では、地域の文化を受け継ぐために、生徒が3つの伝統芸能を文化祭で披露している。「ドン！ドン！ドン！」と体育館に太鼓の音を響かせる東方組太鼓踊り。生徒たちは文化と一緒に地域の人たちの思いも受け継いでいた。

球磨郡市広報紙研究協議会合同特集

一緒に暮らそう 人吉球磨で

この特集は、人吉市・錦町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村・あさぎり町の広報担当者が協力して作りました。

人口減少や都市部への人口流出が叫ばれる一方で、近年、田舎暮らしに魅力を感じて地方へ移住を希望する人が増加。人吉球磨地域にも、この地に魅力を感じた人がたくさん移り住み始めています。人吉球磨地域の魅力は何なのか？ 移住者を受け入れるために必要なことは何なのか？ 皆さん一緒に考えてみませんか？

地方に吹く新しい風

地方で進む少子高齢化。自治体は人口減少を食い止めるために、増えてきた働く世代の移住希望者を呼び込もうとしています。

加速する地方の人口減少

日本では現在、地方の人口流出や過疎化が深刻になっています。都市部には仕事があふれているため、地方に住む多くの若者が仕事を求めて移り住み、人口の流出がさらに加速。人吉球磨10市町村の合計人口は2010年時点で約9万5千人ですが、30年間で約2万人が減少すると予想されています。一方人口が集中する都市部では、待機児童問題や育児休業後の復職などの問題が発生しています。

人吉球磨10市町村合計将来推計人口（人）
国立社会保障・人口問題研究所 平成25年3月推計

地方への人の流れをつくる

国は、都市部の人口集中を改善し、地方の人口減少に歯止めをかけようと、さまざまなことに取り組んでいます。

総務省は、移住に関する情報の提供や相談支援窓口「移住・交流情報ガーデン」を東京駅近くに開設。ほかにもインターネットで全国の仕事や住まいなどの情報を検索できるサイト「全国移住ナビ」を開設しています。

地方が新たな担い手として都市部の人材を受け入れる「地域おこし協力隊」も定着。全国で約5千人の隊員が活動し、人吉球磨地域ほとんどの市町村で地域の盛り上げ役として活躍しています。

移住定住のための取り組み

近年、都市部への人口流出とは逆に、自然の豊かさや子育て環境、移住先でしかできない仕事など、さまざまな理由で地方での暮らしを望む人が増えています。各自治体は、移住者を呼び込もうと、住民サービスの充実に取り組んでいます。

人吉球磨地域の各市町村では、子どもの医療費や学校給食費の助成、出生祝い金などの子育て支援サービスを充実。そのほかにも、住宅リフォーム費用の補助や農林・商工業の担い手への補助など、住まいや仕事への支援も実施しています。移住定住への関心が高まってきたここ数年では、各市町村のホームページで移住定住情報の発信や移住専用サイトの開設、空家バンク制度などを整備。移住体験ツアーや、都市部の人を対象とした移住相談会を東京・大阪・福岡などで開催しています。

▶移住体験ツアーで空き家を見学する参加者（球磨村）

INTERVIEW 東京都内で移住希望者を支援する池田相談員に熊本の移住定住の現状を聞きました。

くまもと移住定住支援センター
移住相談員 池田 真麻（まあさ）さん

働き盛りの移住希望者が増

東京都にある全国の移住定住情報が集まる「ふるさと回帰支援センター」に熊本県の移住相談窓口を開設しています。以前は退職した団塊世代の利用者が多かったのですが、今は働き盛りの30～40代の人が増え、40代以下の人が利用者の約7割を占めています。

相談は月約40件。移住希望者は、住まいと同時に仕事の事も相談されます。職は重要で、その地の特色ある仕事や、やりがいを感じる仕事が求められます。

人生の転換期になる移住相談は人生相談と同じ。私も熊本県出身として地元の良さを一人でも多くの人に伝え、移住してもらえるよう支援していきます。

人吉球磨に魅せられて

各方面で活躍する移住者の皆さん。なぜ人吉球磨を選んだのか？
彼らだからこそ知る地域の魅力がありました。

1＿焼酎蔵と油井さん
2＿梨の木の生育状況を説明する毎床さん
3＿桒原さんが経営するカフェのピザ
4＿青々とした葉にピンクの花が咲く瓦川さん夫婦が育てた藍

球磨焼酎の魅力を伝える使命

「移住をするならこの地でしかできない仕事をしたい」と、人吉球磨地域の伝統産業である球磨焼酎の杜氏（とうじ）となった油井さん。以前勤めていた服飾関係の仕事で人吉市に転勤。その時に趣味のロードバイクサイクリングや釣りを覚えたことが移住の転機です。「仕事の前後に川を眺めに行くほど川が好き。地元の人からヤマメが釣れると聞き、実際に釣って一気にのめり込み、この地に移住しようと思いました」と当時を振り返ります。

移住した自身の体験談を伺うと「会社や地域に温かく迎えてもらい、自然と溶け込むことができました」と笑顔。今では、子ども会など地域のコミュニティーにも積極的に参加しています。

「球磨焼酎は長い歴史があり、同一地域に集約されているというのは全国的にも珍しいです」と油井さん。杜氏の仕事は、毎回仕込みが始まると緊張し、焼酎が出来上がるたびに感動するそうです。

「自分のようなよそ者を受け入れて、杜氏という大事な仕事をさせてもらえるのは本当にありがたい。よそから来た人間だから分かる球磨焼酎の魅力をどう伝えていくか。それが自分の使命なのかなと思っています」

▲米を蒸して球磨焼酎の仕込みを行う油井さん

油井（ゆい） 聡（さとし）さん（人吉市）

profile

昭和49年生まれ。静岡県浜松市出身。平成10年に移住。現在、球磨焼酎の蔵元・深野酒造株式会社で杜氏として球磨焼酎の製造に携わっている。妻と小学6年生の息子と3人暮らし。

自然が子どもたちの大きな公園

100年以上続く梨農家の毎床家。長年梨園を経営していた祖父が高齢のため作業が困難になったことや、近所の同級生が亡くなった父の跡を継いで就農したこともあり、28歳で家族と一緒にUターン。毎床さんは梨農家を継ぎ、現在、父母と3人で4代目として梨園を経営しています。

球磨村にUターンしたとき地域の人たちは大歓迎。益城町出身の妻・由希（ゆき）さんは「お店や病院までは家から少し遠いですが、自然が豊かで、ご近所さんも良い人たちばかり。子育て環境もすばらしいです」と話します。「祖父から、梨は子どもと同じように大切に育てないとだめと言われました。実際、子どもより梨の木と接するほうが長いんです」と笑顔で話す毎床さん。しかし、子どもたちにとって梨園は絶好の遊び場。自然の公園である梨園を元気に駆け巡っています。

「先代が100年以上育てた木を手入れできることがうれしい。今ある木と自分が植えた木が100年以上育ってくれるように頑張ります」と力強く話します。今後の夢は、2020年の東京オリンピックで一勝地梨を世界に広めること。家族や地域の人たちに支えられながら、大きな夢に向かって歩き続けます。

▲共同作業で梨の箱詰めをする毎床さん夫婦

毎床（まいとこ） 智和（ともかず）さん家族（球磨村）

profile

昭和59年生まれ。地元と熊本市内で9年間仕事をした後、家業の梨園を継ぐ決意をし球磨村にUターン。妻と3人の娘、両親、祖母の4世代で暮らし梨園を経営している。

おいしい食材を広めたい

故郷で農業をしながら「Farmer's Café SAKURI（ファーマーズ カフェ サクリ）」を経営する桒原さんと妻の美穂子さん。店の自慢は、新鮮なトマトやバジルなど自家製野菜をたっぷり使った本格的な窯焼きピザやパスタ。その味を求めて郡市内外から多くの人が訪れています。

東京都内でバーを経営していた桒原さん。7年前、子どもが生まれたのを機に、青森県出身の美穂子さんと子どもの3人で帰郷。3年前に念願の店をオープンさせました。

美穂子さんは「水が良いので食べ物がおいしい。お米もおいしく炊けます」と地域の印象を語ります。「最初は、『何か変わったことをし始めた』と言われて悲しかったこともありますが、子どもが豊かな自然で伸び伸び育ち、都会ではできない体験ができています。生活は車がないと不便ですが、幸せですよ」と2人は話します。

2人の目標は自家製野菜のできたてピザをインターネットで販売すること。桒原さんは「できたてのピザを真空パックで冷凍することに挑戦しています。まずは地元のイベントに出したいと思っています。お店に食べに来ることができない人にもおいしい食材を広めたいです」と笑顔で話しました。

▲桒原さんが店の窯で本格的なピザを焼く

桒原（くわはら） 県一（けんいち）さん夫婦（錦町）

profile

昭和50年生まれ。球磨郡錦町出身。東京都内でバー経営などの経験を経て家族でUターン。現在、錦町で妻の美穂子さんとカフェを経営。娘3人と両親の7人家族。

心満たされる地で藍染めの魅力を発信

「水がきれい」という印象の九州で移住先を探していた瓦川さん家族。子育てに良い環境や農業をする畑があることなどの理想を求めて、旅をしながら住むところを探していました。「知り合いに水上村を紹介してもらい、現地へ足を運んですぐほれ込みました。移住して3年目ですが、地域の人も優しくて何より水がおいしいです」と移住したきっかけを話します。

瓦川さんは、祖母が住む徳島県で「阿波藍（あわあい）」などブランド化された藍染め文化に触れ、その後、旅先のタイで染めをしていた妻の佳奈さんに出会います。移住後、夫婦で本藍染めを本格的に開始。現在、藍作（あいさく）を主に農業をし、村の体験イベントでは草木染めの講師として活躍中。「organic（オーガニック）藍 farm（ファーム） 和水家（なごみや）」として村内外のイベントにも出店しています。「今の家を工房化して、地元の人たちに藍の魅力をもっと知ってもらいたいです。ゆくゆくは、地方ブランド化も目指します」と目を輝かせます。

きれいな水や自然の豊かさが人吉球磨の魅力だそう。「田舎暮らしは不便さもあるけど、なぜか心は満たされます。この地にはもっと人を呼び込めるはず。藍で人吉球磨の活性化に貢献したいです」

▲藍のたたき・生葉染めを体験した皆さんと

瓦川（かわらがわ） 陽大（あきひろ）さん家族（水上村）

profile

昭和56年生まれ。神奈川県出身。山形県出身の妻の佳奈さんと子ども2人の4人家族。平成27年に水上村に家族で移住。主に藍農家として藍染めに力を入れている。

築きあう"きずな"

移り住んできた人たちが長くこの地域で暮らすためには、何が必要なのでしょうか？　移住者と地域の人に話を聞きました。

山江村の頼れる案内人

山江村で暮らす田村四郎（しろう）さん(81)は、移住してきた人に地域の決まりごとなどを教え、地域に早くなじめるように、自宅周辺の約20世帯の世話役を担っています。世話役を始めたのは、田村さんが40年ほど前に、別の地区から今の場所に引っ越してきたとき、地域のことが分からず苦労したことがきっかけ。

こうした自身の経験から、移住者が引っ越してくると、田村さんはすぐさま移住者宅を訪問します。区長をはじめ地区内一軒一軒へのあいさつまわりや行事の紹介、ごみ出しのルールなどを教え、集まりを設けて地元住民に新しい仲間を紹介しています。「移住してくる人は地域になじめるか、地元の人もどんな人が来るのか不安を抱えています。どちらにも安心してもらいたいんです」と活動の背景を話します。

移住者からの信頼

田村さんの活動を耳にし、移住者から相談に来ることもあります。鹿児島県から引っ越してきた宮原亜紀子（あきこ）さん(39)もその一人です。「春・秋の観音開帳時の接待のやり方など分からないことが多く、そのたびに相談に乗ってもらいました。田村さんを通じて地域になじめたと思います」と感謝と信頼を寄せています。

顔を合わせる雰囲気づくり

「地元の人から、移住者に『どうしましたか？』と一声掛けることが大切です。みんなで地域文化を守り、子どもを見守る地域にしたい。移住者は、地域の人と積極的に顔を合わせてほしい。その機会を設けて、無理せず出てきてもらう雰囲気づくりを心掛けています」と、田村さんは地域づくり成功の秘訣を話します。

この心掛けが住民の意識に変化をもたらし、月に一度の美化活動には、呼び掛けをしなくても自然と人が集まります。「この地域づくりの雰囲気を村全体に広めたいです」。田村さんは今後も地域と移住者のつなぎ役として積極的に活動していこうと、これからの目標を語りました。

住民と移住者の本音

行事にもっと参加してほしい
分からないことがあれば気軽に声を掛けてほしい
住民

葬式や彼岸の接待など、慣習やしきたりを理解するまでが大変
移住者

1＿移住者の気持ちを知り、世話役を務める田村さん　2＿持ち寄った料理を囲んで地域行事の打ち合わせも和やかに　3＿積極的に地域に入ることの大切さを語る宮原さん　4＿相良三十三観音めぐりの参拝者を笑顔でおもてなし

都会にはないものが人吉球磨にはある

どこの地方でも年々人口減少している中、地域をどう維持していくかが課題となっています。地域を維持していくために一番必要なのは、「人」です。人がいればその地に仕事や生活が生まれ、地域の魅力を受け継いでいくことができます。

田舎暮らしは都会に比べて不便さがあるのも事実です。しかし、豊かな自然が織りなすおいしい水や食べ物、伸び伸びとした子育て環境、心のゆとりは田舎でしか感じることができません。それに魅了され、人吉球磨地域にもここ数年で移住者が少しずつ増えてきています。家業を継ぐためUターンした人、伝統や環境を生かした仕事をするために移住した人など、ここにしかないもの、ここでしかできないものが人吉球磨地域にはあります。

声を掛け合える仲間と一緒にふるさとで暮らす

移住後スムーズに地域に溶け込めるのはまれで、ほとんどの人が地域の習慣に慣れるまで苦労しています。一方で、地域の人たちも移住者とどう接したらいいのか分からず、もどかしい気持ちを抱えています。

お互いがうまく付き合っていくためには、地域は移住者を受け入れ、同じ場所に住む仲間として接すること。移住者は、地域の集まりやイベントに積極的に参加すること。その中で、声を掛け合うことが大切です。あいさつや何気ない会話で人を知り、地域を知ることで、そこが住みよい場所になっていきます。

人吉球磨地域の魅力を分かってくれる人たちと一緒に暮らしていくことで、私たちの大切なふるさととの未来を築いていけるのではないでしょうか。

湯前町の地域おこし協力隊として活動しながら、湯前少年柔道クラブで指導している兵庫県出身の安井佳奈（やすいかな）さん（前列中央）。地元住民に囲まれ笑顔を見せる安井さんは、持ち前の礼儀正しさと笑顔で住民からの信頼が厚い

漫画を楽しむ
みんなの気持ちが、
まちの力になる――

ドキドキとワクワクが止まらない、

コスプレ図鑑

2017ゆのまえ漫画フェスタ

2017ゆのまえ漫画フェスタ

漫画のこだわりに1万6千人が熱狂

2017ゆのまえ漫画フェスタ（伊藤晶一実行委員長）は11月12日にまんが美術館一帯で開かれ、メーンのアニソンスーパーライブや漫画家のトークショーなどをめあてに1万6千人（主催者発表）が来場し、会場が熱気に包まれていました。

漫画フェスタは「漫画のまち」として本町を県内外に広くPRし、地域を盛り上げようと開かれ、ことしで26回目。鶴田正己町長をはじめ、本町の職員も人気アニメや漫画のキャラクターに仮装したコスプレ姿で来場者を歓迎。来場者も、コスプレをして参加する人がたくさんいました。

メーンのアニソンスーパーライブでは、「ドラゴンボール改」などの人気アニメの主題歌を歌うアニソンシンガーの谷本貴義さんと「聖戦士ダンバイン」などの主題歌を歌うMIQさんが持ち歌を熱唱。二人が一緒になって人気アニメの曲を歌う場面もあり、県内外からかけつけた熱狂的なファンは、曲に合わせて手や体を動かし、ライブを楽しんでいました。

ステージでは、芦北町在住の村枝賢一さんら人気漫画家や「ドラえもん」の骨川スネ夫役などで知られる人気声優の関智一さんらのトークショーを開催。那須良輔風刺漫画大賞の表彰式やコスプレ参加者の紹介、仮面ライダービルドショー、湯前中学校吹奏楽部の演奏や地元団体によるダンスなどもありました。

会場内では、畜産まつりコーナーで、町内の畜産農家が精肉を販売。湯前産黒毛和牛の串焼きや和牛ホルモンの煮込みなども販売し、行列ができていました。改善センター大集会場では、トークショーを開催したゲストのサイン会があり、風刺漫画大賞作品の展示スペースもありました。

ほかにも林業コーナーやデジタル工作体験、商工会青壮年部の遊具・ゲームコーナー、健康福祉コーナーなどがあり、会場では、大人から子どもまで一緒になって楽しんでいました。

❶谷本さんとMIQさんが圧倒的な歌唱力を披露。コラボでは人気アニメの主題歌も歌った ❷仮面ライダーアマゾンの主題歌を歌うサプライズゲストの岡崎徹さん。会場ではやさしくサインに応じた ❸二人のアニソンライブに集まったファンたちも熱狂

❹会場内では漫画家の東毅さんがみずから手がけた同人誌をサイン入りで販売し、見事完売した ❺やわらかく、味もしみ込んだ和牛ホルモンの煮込みは絶品 ❻湯前中吹奏楽部もアニメの曲を披露 ❼小さな子どもたちが熱いまなざしで見守った仮面ライダービルドショー

MANGA FESTA EVE

漫画フェスタ前夜祭

ゲストがトークや画力対決でファンを魅了

ゆのまえ漫画フェスタの前夜祭が11月11日に農村環境改善センターで開かれ、人気漫画家と声優によるトークショーや画力対決などで集まったファン約200人を魅了していました。

ことしは漫画フェスタ当日にトークショーを開いた村枝賢一さん（仮面ライダーSPIRITSなど）、熊本市出身の東毅さん（電波教師など）をはじめ、皆川亮二さん（ARMSなど）、初参加の橋口たかしさん（焼きたて!!ジャぱんなど）ら漫画家と声優の関智一さんがゲストとして登場。サプライズゲストとして「仮面ライダーアマゾン」（1974年〜75年放映）で主役の山本大介を演じた岡崎徹さんもかけつけ、会場をにぎわせました。

5人は司会の前田シゲさんとともに、冗談を交えながら、今の職業に就いたきっかけや、作成・収録の裏話などを語り、会場は常に笑い声に包まれていました。

おなじみとなったゲストの画力対決では、ウルトラマン、ミッキーマウスを題材にしてイラストを描いたあと、岡崎さんのリクエストで馬をテーマに5人がイラストを作成しました。漫画家の圧倒的な画力や声優・俳優のユーモアをきかせたイラストなど、それぞれ特徴のある作品を仕上げ、それを見た来場者たちは、写真を撮ったり、声をあげて笑ったりと笑顔で前夜祭を楽しんでいました。3人のトークショーをめあてに遠くは東北地方などから来場するなど、熱狂的なファンが会場いっぱいになるほど集まっていました。

それぞれ特徴のあるイラストを描き上げたゲストたち

名物となったゲストの画力対決を間近で見学する参加者

村枝さんが手がけたキャラクター「ジエンド」がゲストの絵を紹介

No.1

JTの森ゆのまえ

森守るネットをきれいに

本町と日本たばこ産業株式会社（ＪＴ）が進める「ＪＴの森ゆのまえ」の活動が10月21日にゆのまえグリーンパレスと近くの町有林で行われ、小雨が降る中、２４０人がシカやイノシシから森を守るための防護ネットの補修作業に汗を流していました。

両者はまちと企業の森づくりを目指し、平成21年から1期5年の協定を結んでいて、毎年春と秋の2回活動。現在、2期目として期間を平成30年度まで延ばし、約２０８㌶の町有林で植林をしたり、木の生長を妨げる草木を除草したりして森を守っています。

今回は九州各地のＪＴ社員とその家族、緑の少年団員や地元住民らが参加。グリーンパレス炊飯棟で開会式が開かれたあと、参加者は10班に分かれて、直径20㌢の丸太の早切り競争を行いました。「森の課外授業」では、球磨地域振興局森林保全課の職員を講師に、シカによる森の被害状況を学びました。

その後、町有林に移動し、上球磨森林組合職員らの指導を受けながら、防護ネットにからまっていた植物のツルをカマで取り除き、２５０㍍のネットをきれいにしました。

参加者はバーベキューで昼食をすませたあと、市房山大杉の見学、木工体験、温泉入浴の三つに分かれ、それぞれ体験。木工教室では、参加者が木材にくぎを打ち、インテリア用の物置きを笑顔で作っていました。

1 シカやイノシシから森を守るためのネットを、カマを使ってきれいにする参加者 2 10班に分かれ、よこ並びで森林を整備 3 笑顔で丸太の早切りをする参加者 4 大人と一緒に木工に挑戦する子ども 5 活動には地元住民や九州各地のJT社員240人が参加

No.2

第33回湯前町文化祭

舞台や展示で磨いた技を披露

第33回湯前町文化祭が11月2、3日に農村環境改善センターで開かれ、舞台発表や力作ぞろいの展示をめあてにたくさんの人が会場を訪れていました。

文化祭は湯前町文化協会（那須清文会長＝２２０人）が主催し、教育委員会や熊本県文化協会、老人会や地域婦人会などの地域団体、人吉新聞社が後援。

作品展は2日～3日、舞台発表は3日に開かれました。

3日の午前9時から開かれた開会式では、那須会長が「長年文化祭を続けられるのも、地域の皆さんのおかげ。会場には心や体、社会的な健康の中から生まれた力作がそろっている。どれも皆さんに元気を与えられるような作品になっているので、ゆっくり見ていただきたい」とあいさつしました。

舞台発表では、慈光こども園年長児が鼓隊演奏や体操、湯前小学校4年生が花笠音頭、湯前中学校吹奏楽部が吹奏楽と和太鼓の演奏を披露。子どもたちが発表したあとは、会員が日舞や社交ダンス、太極拳、民謡などを発表し、日ごろの練習の成果を発揮しました。作品の展示では、写真や絵画、書道、工芸品、フラワーアレンジメントなど４３５点がずらりとならび、見学した来場者はその完成度の高さに驚いていました。

1 会員の力作を一目見ようと多くの人が会場に足を運んだ 2 リズムに合わせて体を動かす（太極拳） 3 ユニークな作品もそろう工芸品 4 体をゆらし、リズムよく太鼓をたたく子ども（エイサー） 5 声をそろえて歌声を披露した（民謡） 6 大勢の観客の中、湯前小4年生も花笠音頭を披露 7 日ごろの練習の成果を披露する会員ら（社交ダンス）

CLOSEUP／THE FRONT OF YUNOMAE STATION

駅前のにぎわいづくりへ

レールウイング内の3施設がプレオープン

本町が湯前駅よこの多目的イベント広場「レールウイング」で建設を進めていた、湯前まんが図書館・カフェ・展示体験販売施設のプレオープン式典が10月29日に現地で開かれ、関係者35人が施設の完成を祝いました。

湯前駅前のにぎわいをつくるために、昨年11月から施設を建設していました。完成した3棟はすべて木造平屋建て。まんが図書館とカフェは20.02平方メートル、展示体験販売施設は48平方メートル。

まんが図書館は観光物産協会（上米良秀人会長）が運営。イスやテーブルが置かれ、無料で3000冊の漫画を読むことができます。同館は毎日午前9時～午後5時まで開館（年末年始除く）。

カフェは「ユノカフェ」と名づけられ、一般社団法人奥球磨スマートタウン研究所（横山正人代表理事）が運営。コーヒーや紅茶、スムージーなど10種類のドリンクや、ゆずこしょうを使ったピザ、地元製菓店のお菓子を使ったパフェ・ケーキなど地域の特産品・農産物を生かした軽食を提供。

展示体験販売施設では、町内の手芸愛好家でつくる「ひなの会」（姉川美恵子代表）が一針一針ていねいに縫い上げた、こだわりのパッチワークが展示されています。

プレオープン式典では、鶴田正已町長や山下力議長、上米良会長、横山代表ら7人がテープカットを行い、完成を祝いました。

同時に、ふれあい交流センター「湯～とぴあ」内の物産販売所を大きくし、観光案内所を設置するために、改修工事が行われました。12月16日にはグランドオープンが開かれる予定です。

テープカットで完成を祝う関係者

INTERVIEW

人のつながり大切に、地域に愛されるカフェへ

ユノカフェで働く
森田　真音香さん（31＝中里２）
桑原　やよいさん（36＝下村）

前々から自分でお店を開きたいと思っていたところ、ことし8月に横山さんから誘いをうけて、カフェで働くことになりました。「湯前町」のカフェというのが私たちのコンセプト。地産地消はもちろん、町内の店舗とも協力しながらメニューを提供していきたいです。

手作りなので、作ったものすべてが我が子のようにかわいい存在です。お客さんからおいしかったと言われるとうれしくなります。

おいしいものを作ることはもちろん、人と人のつながりやコミュニケーションを大切にしながら、地域の皆さんに愛されるようなカフェにしたいです。おススメは週末限定のハンバーガー。シュークリームも人気です。二人とも、小さな子どもがいるので、だれもがおいしく食べられるよう、保存料も使わず、アレルギーに対応したパフェも用意しています。皆さん、ぜひ食べに来てください！

ユノカフェ

カフェのロゴは市房山から登る朝日に、稲穂、町の鳥のメジロを電車の表示板風にしたデザイン。くま川鉄道の始発・終着駅となる湯前駅のイメージにぴったり

1 レールウイング内に建てられた３棟の施設 2 3000冊の漫画をそなえるまんが図書館 3 ケーキやピザなどの軽食やドリンクを楽しむことができるカフェ 4 ひなの会のパッチワーク作品が飾られている展示体験販売施設

Close up
クローズ・アップ
yunomae town pride.

Photo Report

ユノカフェ

ところ：レールウイング
営　業：午前10時～午後４時
休業日：火曜日・木曜日

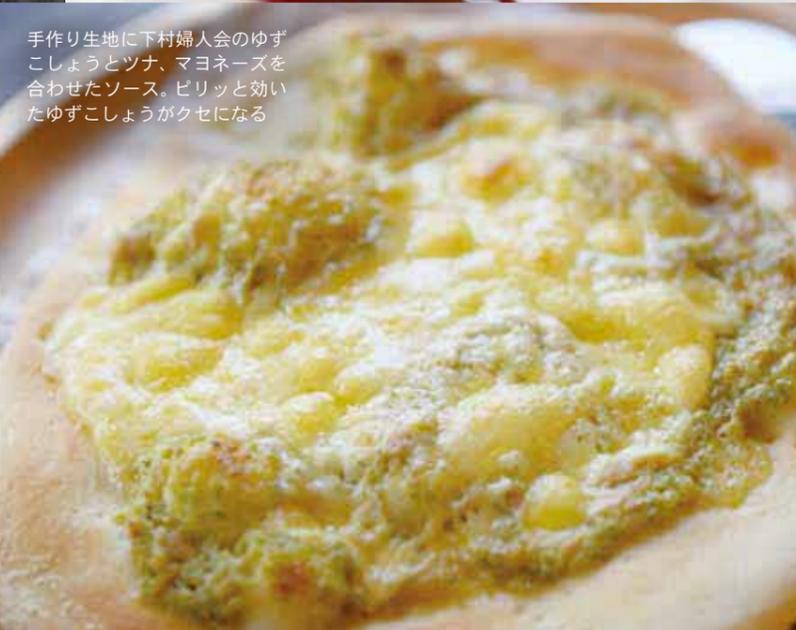
扉や壁に木を使い、現代的な空間になっているユノカフェ。扉を開けるとケーキやコーヒーの良い香りが室内にただよう。「いらっしゃいませ」と笑顔で迎えてくれる桑原さんと森田さん。温かな雰囲気で時間もゆったりと流れる。大人から子どもまで幅広い年齢層が足を運ぶ。地元小・中学生や親子連れも多い。天気の良い日にはテラスで一息つくのも気持ちが良い。急ぐときにはテイクアウトでの注文もできる。

兼田製菓舗の黒棒を使った和風パフェ。同店のあんこも使用。白玉、生クリーム、バニラアイスに抹茶ソースをトッピング。中に刻んだ黒棒が入っているため、風味や甘味だけでなく、ザクザクとした食感と白玉のモチモチした食感の両方を楽しむことができる

ケーキにも地元でとれた果物を使用。日替わりで常時２～３種類が店内にならぶ。チーズケーキの下層はブラックココアのクッキー生地。ブルーベリーソースとの相性もばつぐんだ

色の秘密はバタフライピーという青いハーブ。ユノカフェでは県産のものを使用。レモンのクエン酸に反応して、青色から鮮やかな紫色へと変化する。緑茶とレモングラスをブレントし、すっきりとした味わい

◀朝から焼き上げたこだわりのバンズ。ハンバーグのように厚みのあるパテは冷めても肉汁が出るほどジューシー。肉は「肉の丸一」から仕入れる。手間と時間をかけているため、週末限定となっている

▼透明なグラスだけでなく、陶器のコーヒーカップもある店内。メニューだけでなく、雰囲気や内装も楽しむことができる

手作り生地に下村婦人会のゆずこしょうとツナ、マヨネーズを合わせたソース。ピリッと効いたゆずこしょうがクセになる

長年の活動を評価
行政相談委員の右田さんに総務大臣表彰

10月10日(火)

行政相談委員の総務大臣表彰式が10月10日に東京都の京王プラザホテルで開かれ、本町の行政相談委員、右田秀美さん（65＝上里3）が総務大臣から表彰されました。

行政相談委員は住民から、行政サービスや手続きなどの相談を受け付け、解決のための助言や関係機関への連絡を無報酬で行っています。表彰は総務省が主催し、住民の身近な相談窓口として特に解決に貢献している委員が対象。今回、全国で100人が表彰されました。

右田さんは平成14年から同委員として活動し、毎月1回保健センターで相談所を開設。昨年9月に全国行政相談委員連合協議会の会長表彰も受けています。右田さんは「今の活動が住民のためになるのであれば、できる限り続けていきたい」と話していました。

長年の活動が認められ、表彰された右田さん

住み慣れた場所で暮らすために
在宅医療講演会

10月27日(金)

いつまでも住み慣れた場所で暮らすための「在宅医療」の講演会が10月27日に保健センターで開かれ、60人が在宅医療についての理解を深めました。

在宅医療は、医師や看護師などが、患者の住まいを訪問して行う医療活動のこと。市町村が進めようとしている在宅医療を住民に知ってもらうために、上球磨地域包括支援センターが主催し、本町が共催しました。

公立多良木病院在宅医療センター医師の春口洋賜さんと訪問看護ステーション「たいよう」看護師の織田伸一さんを講師に講演が行われました。参加者は「内容が分かって、今までの不安がなくなった」「自分の今後もきちんと考えたい」などと感想を話していました。

在宅医療の知識を深める参加者

昔ながらの方法を学ぶ
湯前小5年生が脱穀体験

10月31日(火)

湯前小学校5年生の脱穀体験が10月31日に、同校グラウンド近くの田んぼで行われ、児童32人が、昔ながらの機械を使って、稲穂から米粒の入っている「もみ」をはがしていました。

取り組みは児童の食育の一環として行われ、JA青壮年部湯前支部が協力。児童は6月に田植えをし、10月23日に稲刈りをしました。脱穀体験では、足で板をふみ、機械を回転させる「足踏み脱穀機」を使った、昔ながらの脱穀の方法を学びました。青壮年部員が付き添い、児童はリズム良く板をふんでいました。

参加した椎葉天俐さん（湯前小5年＝野中田1）は「足がきつかったけど、うまくもみをはがすことができた。自分たちで育てたものがここまで成長していてうれしい」と話していました。

青壮年部員に指導を受けて、
昔ながらの脱穀を体験する児童たち

創立70年の文化を受け継ぐ
湯前中学校文化祭

11月11日(土)

湯前中学校（古家慎也校長）の文化祭が11月11日に同校で開かれ、全校生徒99人が伝統芸能の継承活動や、演劇、合唱など学習の成果を発表しました。

開会式では古家校長が「3カ月間準備・練習してきた集大成を披露する舞台。みんなは学校創立70年のすばらしい伝統と歴史を受け継いでいる。今日は自信を持って発表してほしい」、実行委員長の林陽輝さん（湯前中3年＝下城）は「文化祭は多くの人にとって自分を変えることのできる大きなチャンス。しっかりと文化を受け継ぎ、よりよい湯前中を目指していこう」とあいさつしました。

実行委員会によるテーマ発表やオープニングセレモニーの映像を放映したあと、13年間取り組まれている伝統芸能の継承活動の発表があり、生徒たちは球磨神楽、浅鹿野棒踊り、東方組太鼓踊りを披露。生徒たちの発表を一目見ようと、多くの保護者や地域住民が集まりました。

ステージ発表では、各学年に分かれて総合的な学習の時間で調べたことを発表。ほかにも演劇や英語暗唱、吹奏楽部の演奏、ミュージカル、合唱祭などがあり、生徒たちはそれぞれに汗を流していました。会場内には書道や湯前町のPRポスター、科学展の作品、壁新聞など生徒たちの頑張りが表れている作品がずらりとならんでいました。

1 太鼓や笛の音色に合わせて球磨神楽を奉納する生徒
2 棒や太刀を持ち、ペアと息を合わせる浅鹿野棒踊り

町のPR動画を作成
プロモーション映像製作ワークショップ

11月17日(金)～19日(日)

「プロモーション映像製作ワークショップ」が11月17日～19日に湯前町役場で開かれ、13人が町をPRする動画を企画しました。

企画やシナリオ作成、撮影、編集などの作業をすることで住民が映像製作のノウハウを学べるようにと町が主催。

初日は自治体のPR動画などを手がける株式会社「とっぺん」（佐賀県）の陣内智崇さんを講師に、手法を学んだあと、参加者はどんな映像にするかを話し合いました。内容をある程度決めたあと、二日目の午後から実際に町内をまわり、下町橋や里宮神社、まんが美術館、商工業者の仕事の様子などを撮影しました。

次回は来年1月19日、20日に開かれ、撮影した動画を3分間に編集。本年度内に無料の動画共有サイトに掲載する予定です。

町内をまわり、動画を撮影する参加者たち

1/14(日)
第６回公認奥球磨ロードレース大会

今回も国道を往復するコースを計画しています。
当日は、コースや周辺道路で混雑が予想されますので、ご協力をお願いします。

■日　時　平成30年１月14日（日）午前10時50分～正午ごろ
※国道区間全面通行止め（予定）
※水上村役場～湯前町区間は、午前９時ごろから交通規制を行います

■区　間
水上村
水上村役場前 → 岩野小学校前（湯前方面へ）→ 佐本橋まで
湯前町
佐本橋 → 時の公園前交差点（湯前町役場方面へ）→湯前町役場折返し →
時の公園前交差点（多良木方面へ）→ 多良木町まで
多良木町
湯前町 → 信用組合多良木支店折返し → 湯前町まで

■種　目
・５㌔（中学男子・女子フリー）
・10㌔（高校男子）
・ハーフ（一般男女）

問い合わせ　B&G海洋センター

ECOLOG
11月のごみ情報

※12月の不燃物収集は6日・20日です。（第１・第３水曜日）

ごみの３Rで地球温暖化ストップ！

【買い物】
・買い物袋は持参。余分な包装は断る。
・エコマークや省エネマークのついた商品を買う。
・シャンプーは詰め替え、農産物は、地元のものを買う。

【家庭内】
・冷蔵庫にものを詰めすぎず、料理は食べるだけ作る。
・テレビの主電源やいらない照明を消す。
・洗濯、洗面、歯磨きをするときは、節水する。

【自動車】
・ハイブリッド自動車や低燃費、低公害車を買う。
・近距離の通勤や買い物は公共交通機関や自転車を使う。
・アイドリング、急発進、空ぶかしをやめ、一定の速度で走る。
※一般道40㌔・高速道80㌔

【ごみの３Ｒ】
・エコマーク、グリーンマークがついた再生品を使う。
・消費を減らし、繰り返し使えるものを使う。
・リサイクルできるものはリサイクルする。

	先月分	今月分	昨年の10月分	
燃えるごみ(kg)	59,250	64,810	56,700	+8,110⬆
燃えないごみ(kg)	4,990	3,770	4,320	−550⬇
リサイクル品(kg)	12,340	12,370	11,860	+510⬆
粗大ごみ(kg)	420	860		
有害ごみ(kg)	40	0		

第48回衆議院議員総選挙・第24回最高裁判所裁判官国民審査
投票率65.27㌫、前回からプラス1.63㌫

投票結果(小選挙区・比例)

	男	女	合 計
有権者数	1,567	1,851	3,418
投票者数	1,047	1,184	2,231
うち不在者・期日前投票	462	625	1,087
棄権者数	520	667	1,187
投票率	66.82%	63.97%	65.27%

第48回衆議院議員総選挙・第24回最高裁判所裁判官国民審査は10月22日、町内４カ所で投票、保健センターで開票が行われました。投票率は３年前の同選挙の63.64㌫から1.63㌫上回る65.27㌫でした。期日前投票をすませた人は1048人で前回の767人から281人増えました。

開票結果（比例代表）

党派	票数
幸福実現党	26
希望の党	296
公明党	324
社会民主党	42
日本維新の会	45
日本共産党	99
立憲民主党	353
自由民主党	915
無効	131

BOOKS
読書のススメ

中央公民館図書室　※貸出期間２週間／一人５冊まで
○平日　午前８時30分～午後５時　○土日・祭日　午前９時30分～午後５時
［問い合わせ］教育委員会　TEL0966-43-2050

「地方の書店」の奮闘、感動の物語
桜風堂ものがたり
村山 早紀（著）PHP研究所
万引き事件がきっかけで、長年勤めた書店を辞めることになった青年、月原一整。ある町で訪れた書店。一整が見つけた「宝もの」のような一冊を巡り、彼の友人が、元同僚たちが、作家が、出版社営業が、一緒になってある奇跡を巻き起こす。

生者と死者の新たな関係描く
想像ラジオ
いとう せいこう（著）河出書房新社
海ぞいの小さな町を見下ろす杉の木のてっぺんから、「想像」という電波を使って「あなたの想像力の中」だけで聞こえるという、ラジオ番組のオンエアを始めたDJアーク。東日本大震災を背景に、生者と死者の新たな関係を描き出した一冊。

版画で描かれる動物たちの物語
かたあしだちょうのエルフ
おのき がく(著,イラスト) ポプラ社
エルフはわかくてつよくてすばらしく大きなおすのだちょうです。ひといきで千メートルもはしったことがあったくらいです。みんなは、エルフ、エルフとよぶようになったのだそうです。エルフとはアフリカのことばで、千のことなのです。

小さな空間に広がる世界
てぶくろ
エウゲーニー・M・ラチョフ(イラスト) 福音館書店
おじいさんが森の中に手袋を片方落としてしまいます。雪の上に落ちていた手袋にネズミが住みこみました。そこへ、カエルやウサギやキツネがやってきて、「わたしもいれて」と仲間入り。手袋は少しずつ大きくなっていき、今にもはじけそう…。

町内8カ所の参加者がともに汗流す

いきいきクラブ大交流会

各公民分館で行っている「いきいき百歳体操」を改善センターで行い、交流した参加者たち

介護予防のために、町内８カ所で行われている「いきいきクラブ」の大交流会が、11月７日に農村環境改善センターで開かれ、各クラブの参加者や各地区の区長、公民分館長、老人クラブ会員など80人が参加。各クラブで行っている取り組みを紹介したり、全員でゲームや体操をしたりして交流を深めていました。

同クラブは住民の「通いの場」をつくり、介護予防に取り組くんでほしいと本町が各地区を支援するもの。平成28年10月から町内２カ所で開かれたのをきっかけに、現在は８カ所でクラブが発足し、それぞれ活動しています。

交流会は取り組みが始まってから１年を迎え、各クラブの交流や取り組まれていない地区へ活動を広めるために企画されました。

80人全員が誕生日順に手をつなぎ、一つの円になるゲームで交流をしたあと、町関係者と各クラブの代表者がそれぞれの取り組みを写真などで紹介。各クラブの最高齢参加者や、毎回参加している人、クラブを盛り上げている人など、各クラブから推薦された人たちが「MVP」として町から表彰されました。

そのあとは、手首や足首におもりを巻きつけ、イスに座りながら手足を動かす「いきいき百歳体操」を全員で約40分間行い、楽しみながら汗を流していました。

1 誕生日順に手をつなぐゲームで笑顔 2 大きな画面に映像を映してみんなで体操
3 MVPとして町から表彰された参加者 4 ふとした合間にも笑顔があふれる

文化のタカラ湯

～日本で最も豊かな隠れ里の歴史～

Vol.8

上里の町観音

人々を常に見て、救済する聖観音

国道219号を横谷方面に進み、上里１区に入ると、道路の右側に小さなお堂が建っているのが見えます。相良三十三観音巡りの第26番札所となっているのが、上里の町観音。

お堂の由来は分かっていませんが、堂内に残る棟札から、明治33年（1900年）に建てられたことが分かっています。

堂内には高さ77㌢の木造聖観音立像があり、室町時代後期に作られたと考えられています。

聖観音は観音菩薩ともいわれ「人々を常に見て、どこかに救いの声（音）があれば救済する」という意味から名づけられました。

日本では飛鳥時代から作られ、この像のように単独でまつられたり、三尊像の脇侍（城泉寺や八勝寺）や六観音（普門寺）のように複数でまつられたりとさまざまです。神仏の恵みを現世で与えられるとされる「現世利益」の信仰と結びついて時代・地域を問わず広がりました。

1 単体でまつられている木造聖観音 2 明治33年に建てられ、相良三十三観音巡りの26番札所となっているお堂

Culture+

Culture+　城泉寺の仏像制作状況をリポート

城泉寺周辺で滞在制作、まちの皆さんお世話になりました！

中尾 綾子（なかお りんこ）さん
（28＝東京藝術大大学院）

私は10月22日から11月12日まで、城泉寺周辺で仏像を制作させてもらいました。

衣のひだの深さや仏像のスケール感。本物の仏像を近くで観察。写真や３Ｄデータだけでは分からないところを確認しました。

城泉寺周辺で滞在している間、住民の皆さんに大変お世話になりました。制作のためのアトリエを提供してもらったり、宿泊場所を手配してもらったりと滞在中は何一つ不自由せずに過ごさせていただきました。制作の様子を見学に来た住民の人には、励ましの言葉をかけてもらい、とてもうれしかったです。ありがとうございました。今後は大学にもどり、細かい部分まで仕上げる作業を行っていきます。

制作で使わせてもらったアトリエ

晴れた日の城泉寺はとてもすがすがしい気分になりました

滞在制作で作業の後半にさしかかった模刻像

Physical

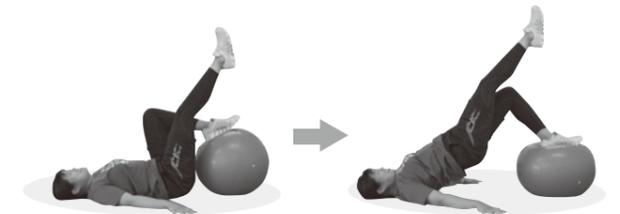
家庭でできるベースアップ教室

バランスボールを使ったお尻の運動

Step1 まずはここから

①仰向けになり、ひざを90度に曲げてバランスボールの上に足を乗せます
②お尻を上げます。このとき、背中・お尻・足が一直線になるようにしてください

Step2　まだまだできるぞ！という人は

①仰向けになり、片方の足をバランスボールの上に乗せ、お尻に近づけます。もう片方の足は伸ばしておきます
②バランスボールに乗せた方の足を軸にしてお尻をあげます。このとき、背中・お尻・伸ばしている足が一直線になるようにします

ポイント：
- お尻をあげるときは、肩甲骨（けんこうこつ）が床から浮くぐらいまで上げる
- お尻をあげるときに、手や肩を使ってもOK！
- この運動をしているときは、手を広げる

※体に無理のない範囲で運動を行ってください

ベースアップ教室…第１～３木曜日午後７時から
B&G体育館で開催しています。

問　B&G海洋センター　℡0966-43-4555
写真協力：公立多良木病院　村山直さん　地域おこし協力隊　安井佳奈さん

Health

保健師だより

子育てについて語り合う仲間を増やしませんか？

にこにこサークル活動中です♪

保健師　東　和美

主に就園前の子どもとお母さんたちが集まって、おしゃべり会やもの作り、料理、ストレッチなど、いろんな活動をしていて、お母さんたちのリフレッシュや子どもたちのふれ合いの機会になっています。楽しい活動の中で子育ての悩みなどを語り合って、仲間の輪を広げませんか？ 妊娠中の人や町内に親子で里帰りをしている人も大歓迎です。

にこにこサークル（育児サークル）
日　時：毎週火曜日　午前10時～正午
場　所：湯前町保健センター　母子指導室
※日時は変更になることがあります
お問い合わせ：湯前町保健センター　東
（℡０９６６－４３－４１１２）

戸籍の窓

ご結婚おめでとう
- 西　健太（馬場）
- 和田　萌（大阪府）
- 姫野　宏太（中里２）
- 吉野　百華（宮崎県）

たんじょうおめでとう
- 溝下（みぞした）　晄悠（こはる）　保護者名 寛明（野中田２）

ご冥福をお祈りします
- 椎葉　花子（上里３）
- 久保田スミ子（下村）
- 平川　房雄（上村）
- 山北　良（瀬戸口）
- 久保田ヒサヱ（野中田３）

香典返し
- 久保田久德（下村）
- 山北　茂香（瀬戸口）

H29.10.1～10.31

ひとの動き

（H29.10.31）

男性	1884人
女性	2142人
計	4026人
世帯数	1629戸

今月の行事予定 Calendar 12

※各地区の健康相談は各地区の公民分館で開催
※行事は11月24日時点。場合によっては変更になることがあります

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SUT
					1 広報・旬報配布	2
3 町内駅伝大会 9：00～ 湯前中	4 健康相談、 特設人権相談 9：00～ 保健センター	5	6	7 健診（6カ月） 12：50～ 多良木町保健センター B&Gベースアップ教室 19：00～ B&G体育館	8 タブレット講座 14：00～ 湯～とぴあ	9 湯前保育園発表会 9：00～ 同園 観光コンテンツ製作 13：00～ 役場
10	11 健康相談 9：00～ 保健センター 健康相談 （瀬戸口・野中田2） 13：30～	12 離乳食教室 9：30～ 健診（3カ月） 13：00～ 多良木町保健センター	13 健康相談（中猪） 13：30～	14 B&Gベースアップ教室 19：00～ B&G体育館	15 旬報配布 健康相談（浅鹿野） 13：30～	16 駅前施設 グランドオープン 9：00～ 湯～とぴあ周辺
17 球磨一周駅伝 10：00～ 須恵小前発	18 健康相談 9：00～ 保健センター	19 幼児検診 13：00～ 保健センター	20 幼児歯科検診 9：00～ 保健センター	21 B&Gベースアップ教室 19：00～ B&G体育館	22	23 天皇誕生日 あゆみの会 クリスマス会 10：30～ 改善センター
24 31	25	26	27	28	29	30

Dietary habits

食生活のススメ

楽しくお酒を飲むために量を見直しましょう

管理栄養士　田中 朋子

お酒を飲む機会が増える師走。体に負担をかけない上手なお酒の飲み方を紹介します。
楽しく美味しくお酒を飲むために、飲酒の量やつまみの内容などを見直しましょう。

飲酒の適量ってどのくらい？　●●●「健康日本21」の“適量”のめやすは **１日平均純アルコール20グラム**です。

純アルコール20グラムの例

ビール	日本酒	ウイスキー	ワイン	焼酎
アルコール度５%	アルコール度15%	アルコール度43%	アルコール度12%	アルコール度25%
500㎖	１合 180㎖	ダブル１杯 60㎖	小グラス２杯 200㎖	コップ半分 100㎖

＊お酒を飲む前に牛乳などの乳製品をとると、胃の負担や酔いが軽くなります
＊おつまみは高たんぱく・低脂肪なおつまみを選びましょう

《おススメのメニュー》・さしみ　・枝豆　・湯豆腐　・やきとり　・おでん

地域おこし協力隊's eye（アイ）
隊員「目線」でリポート

ゆのまえアンバサダー、ここに誕生！

今月のリポーター
安井(やすい) 佳奈(かな)

日中の日差しがありがたく感じるほど寒くなり、体を小さくして歩いていると、半袖や半ズボン姿で元気に笑う小学生を見かけました。「寒ないん？」という私の問いかけに「ぜ〜んぜん！」と答える小学生。その姿を見て、なんだか元気をもらいました。

1 町の広報担当を講師に取材や誌面作りのコツを学ぶ6年生。講師からの質問にも元気に答えていました！ 2 窓際の光を使って、タブレットでパシャリ！ 楽しそうに写真を撮る児童 3 広報湯前が教材に。「分かりやすくて見やすいパンフレット」のヒントを見つけていました

　湯前小学校の6年生25人が、町のPR大使になるために取材の方法を学びました。児童みずからが町の魅力を調べることで、ふるさとに愛着をもってほしいと教育委員会が企画したもの。総合的な学習の時間を使い、町の歴史やお店を取材。オリジナルのパンフレットやCMといった町をPRするものを作ります。この授業では、取材の許可を取るのも、町の人にインタビューをするのもすべて6年生！

　今回は、町の広報を担当している姫野宏太(こうた)さん(28＝中里2)が先生になり授業をしました。写真の撮り方・取材の仕方・写真や文字をどこに置けば見やすくなるかなどの内容でした。実際に、友だちにインタビューしたり、タブレットを使って写真を撮ったりする練習もしました。「分かりやすい言葉を使って話す」や、「光の当て方を変えるだけで雰囲気が違う写真が撮れる」など、取材するときに必要なテクニックを教わりました。参考資料として配ったのが、町の情報が盛りだくさんの広報湯前。町の広報誌を作っている姫野さんから、たくさんの人に見てもらえるよう実際に工夫していることを学びました。

　真剣に話を聞いてメモを取る児童たち。「分かりやすくて、見やすいパンフレットを作りたい」という思いを感じました。住んでいるまちを自分たち目線で取材し、もっとたくさんの人に湯前の良いところをPRしてくれることを楽しみにしています。

ゆのまえにどっぷり。
（ゆる〜く近況報告）

　11月中ごろ母が湯前へ。漫画好きの母は漫画フェスタを楽しみにしていました。骨かじり、無人販売所の野菜、地域の人とのおしゃべり。湯前を満喫していました！　帰宅して、玄関のドアを開けると家の中に広がる温かいごはんの匂い。約1年ぶりの親子の時間を過ごしました。行こうと思っていた場所に行けなかったことが心残り。「また来年やな！」と母が一言。湯前ファンがまた１人増えました。(安井)

母と食べたモンブラン。もうすでに、来年はどんな湯前を楽しんでもらおうかと考えています

「ゆのまえかじり」はこちらから！

湯前町地域婦人会　　会長　橋田實子

かたってみらんね？
地域 婦人会だより

10月9日(月)〜10日(火) 湯前小4年生通学合宿

　二日目の朝食を作りました。「めざし」を見て顔をしかめる子もいましたが、おいしいと言って、ご飯やみそ汁を何杯もおかわり。大変でしたが、子どもたちの笑顔にほっとしました。

10月14日(土)〜15日(日) 九婦大会in沖縄

　アンチエイジングの分科会で、長寿の3大秘訣(①良く笑う②よく食べる③睡眠と運動を多めに)を学び、あらためて健康寿命を見直しました。

11月3日(金) 町文化祭協力

　演技の合間に体をほぐす手遊び体操をしました

11月12日(日)

　漫画フェスタの会場で、日赤のモデル事業の一環として、日赤の活動報告、啓発用のチラシ・パンフレットを配りました。

1 通学合宿では朝の朝食を作り、児童に振る舞いました 2 朝食を食べる児童たち。その笑顔がうれしかったです 3 漫画フェスタの会場でチラシやパンフレットを配り、日赤の活動を報告しました

これから

- 12月6日(水) **支部長研修**　湯楽里でパン作り体験
- 12月13日(水) **支部長会**　正月用のフラワーアレンジメント作り(ミニ)
- 平成30年1月4日(木) **成人式**　ことしもお祝いとして湯楽里の入浴券を贈呈

Nice Smile!
今月のゆのまえがお！

今月のえがおは…
菅原(すがはら)　浩子(ひろこ)さん(57＝湯前小校長)

【ひとこと】
ひごろから子どもたちをさまざまな場面で
支えていただき、ありがとうございます。
「やる気いっぱい、笑顔いっぱい、チーム湯前」で頑張ります！

「笑顔がすてき」「何かＰＲしたい」などたくさんの人を待っています！
（総務課　地域おこし協力隊まで　TEL 0966-43-4111）

Editorial note
編集後記

▼誌面作りの講師として湯前小６年生にコツを教えました。問いかけるときちんと自分の意見を伝えてくれる児童たちに感動。口下手な私の説明でどこまで伝えられたかは分かりませんが、授業中、はきはきとした児童を見て、良い取材をしてくれると確信しました。
▼裏表紙ではロボコンに出場した中学生二人を取材。二人は中学校文化祭の昼休みにロボットを披露。考え抜かれたマシンの動きを見て、二人がどれだけ頑張ってきたかが分かったような気がしました。技術を専門としていた校長先生やロボットとの出会いは、きっと一生の宝物。二人がこれからも出会いを大切にしながら、大きく成長することを願っています。
▼今月は人吉球磨郡市10市町村による合同特集でした。担当者で集まって話し合い、取材をして記事を作成。湯前だけでなく、夢をもってこの地に移住している人たちをたくさん知りました。同じ人吉球磨を盛り上げる仲間として、協力しながら暮らしていきたいものですね。(宏)

ロボットのアイデアを出すために中学生が描いた絵。ここからすごいロボットが誕生しました！

11月号のP27文化のタカラの一部に誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。
(誤)　施無畏山宝陀寺
(正)　施無畏山普門寺

この人に注目！

星原夢杜さん、上米良拓さん

湯前中学校3年生

情熱を注いだロボット製作 うれしさも、悔しさも味わった３カ月間――

第21回熊本県中学生創造アイデアロボットコンテストが11月４日に合志市の熊本高等専門学校熊本キャンパスで開かれ、湯前中学校３年生の星原夢杜さん(浅鹿野)と上米良拓さん(植木)が出場。県内の中学校から26チームが出場した活用部門で、審査員特別賞を受賞した。

大会は４部門で開催。二人が出場した部門は、ロボットにコート内のボールをひろわせ、真ん中のゴールに入れる競技だ。元々技術科が専門で、長くロボコンにかかわる古家慎也校長が６月に生徒に呼びかけ、機械好きの二人が名乗りを上げた。夏休みからスケッチをしてアイデア出し。陸上の練習などで、かかわれる時間が少なかった星原さんがアイデアを出し、上米良さんが主に製作を担当。古家校長に助言をもらい、設計図から形にしていった。

完成までの道のりは険しかった。試したことがうまくいかず、ねじ１本しか進まない日もあった。数えきれないほど修正と調整を繰り返し、ようやく形になったのは10月になってから。ロボットは試作１号、２号を経て「湯前３号」と名づけられた。

試合当日、１回戦を勝ち抜き、２回戦は昨年の準優勝校との対戦。延長戦にもつれこんだが、惜しくも敗戦。ゴールラインに数ミリマシンがふれ、その減点が大きくひびき、予選敗退となったが、マシンの完成度が高く、審査員特別賞を受賞した。

上米良さんは「賞はうれしかったけど、試合は思い出すだけで悔しい。事前に準備することの大切さを知った」、星原さんは「最初は道具の名前も知らなかった。工業系の高校に進学したいので、ロボットを作った経験を生かしたい」と約３カ月を振り返る。古家校長は「勉強や行事が重なる中、本当によく頑張った。作ることが好きだという気持ちが伝わってきた」と二人の頑張りをねぎらった。

発行／湯前町役場総務課 〒868-0621 熊本県球磨郡湯前町1989-1
発行日／平成29年12月１日 印刷／(有)町田印刷